虎丸の木造薬師如来立像

【所　在　地】曽於市末吉町二之方２０１９　曽於市歴史民俗資料館
【種　　別】県指定有形文化財（彫刻）
【指定年月日】平成２８年４月１９日

本像は，ヒノキ材とみられる針葉樹材製で，一木造り，像高 68.9 ㎝の木造薬師如来像である。

曽於市末吉町虎丸地区の祠にまつられていたとされ，現在は曽於市の歴史資料館に保管されている。

本像の作柄をみると，面部は素朴で大振りな面立ちで，細かい抑揚を省いた表現である。また体部をみても，どっしりとした量感のある造形ながら，肉身の起伏は実人的ではなく，衣紋の表現も稠密ではなくやや疎らに彫出されている。

このような表現は，室町時代後期の各地の仏像に通有のものであり，本像背面にある墨書銘が「再興作者沙弥源昌」「願主平盛貞」「天文廿三（1554）年九月十四日」とあることから，この年をさほど遡らない室町時代後期（16 世紀前半）ころの制作と考えられる。

本像は，県内にのこる数少ない室町時代の在銘彫刻のひとつとして，また当時の造像のあり方を示す典型的な作例としてもまことに貴重な存在と言える。